

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	平成23年7月19日	評価結果市町村受理日	平成23年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

強い周辺症状を呈しても、出来る限り薬に頼らないケアを心掛け、本人のQOLを大切に考えている。又、受診の際には細かく症状を伝え、内服薬の選択と副作用についての確認を行い、減薬や中止までの指示を仰ぎ、内服によって弊害が無い様に、出来る限り係りでの対応を意識している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173200510&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年9月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	里の家の理念に地域との係わりを構築すべく理念を作り上げ少しずつ取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議への参加や町内会の行事への出席、当ホームでの焼肉パーティーへ招待など、継続して行ってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内で行われた認知症ケアの報告会にて、当ホームでの認知症ケアの取り組みの発表を行い、認知症の方への係わりや支援のあり方として参考にして頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の生活状況を始め細かに報告すると共に参加者からも、地域の高齢者の事を心配してこういう施設が出来たら良いねと市も交えた中で意見の交換を行い次なるサービスに活かせる様にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加時には、アドバイスや情報提供を頂いたり、こちらからの問い合わせに対し調べて連絡をもらったりと、電話やメールでのやり取りも含め行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。事業所内において、職員は身体拘束のないケアについて学んでおり、あつてはならない事と捉えているが、危険性のある場面等では、言葉で制してしまう事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、事業所内での研修を行っており、虐待の内容などを周知しケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症を持つ利用者にとって、権利擁護の制度は必要な事としては理解しているが、職員全体までは学べてはいない。又、今現在活用を要する利用者はいないが、今後、学ぶ機会は必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	夫々の契約に際しては、説明を行い書面で同意を得ている。又、契約後の改定等においても説明文を送り納得して頂いた中で同意書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や面会時など、家族さんの意向や要望を伺い、出来る限りケアや運営の反映に繋がる様に取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はその都度職員の意見や提案を聞きいてくれていて、内容によっては更に上司への確認を行い反映に繋げている。代表者も毎週足を運び、管理者を通して聞いてくれる機会を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を設け意欲の高い職員に対して報酬に繋がる様な環境や更には、資格取得でキャリアアップが図られる等、働く意欲が高められる様な配慮や条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は多くはないが、その力量に合った研修へは参加している。内部での勉強会も行っている最中。今後資格取得に向けた勉強会などに対しての努力はしていかなければならない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の研修を通して少しずつ行き来する機会が来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供を参考にすると共に、利用者本人とのコミュニケーションを大切にし、思いを受け止めつつ利用者本人が納得出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、利用開始前に、家族様の実情に対して良く話しを伺い、意向と合わせながら利用者本人、家族様が少しでも安心出来る様、入居に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人、家族様の困っている事が少しでも減らせる様、入居を決定しサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に時間を共有し一緒に笑い過ごす事の大切さを意識している。しかし未だ十分とは言えないが、添う事の大切さを捉え、少しずつ関係を築きつつある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の暮らしを伝えつつ、情報を共有する事で利用者様と家族様相互の想いが通じ合う様に取り持ち、家族と一緒に支えているという気持ちで関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の言葉にはあっても、今は存在しない場所が多い中で、思いを受け止める事でしか関われない方が殆どの状況。一方、顔を見ても分からなくなっている状態であっても、時間を見つけ面会に来られ、職員も一緒に同じ時を過ごす様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に関係が良好な時ばかりではなく、職員が間に入り取り持つ現状もあるが、微笑ましい光景も随所に見られ、同じ場所で暮らす中で、自然に支えあう関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至って、関係性としては疎遠になってしまう事が多く、退居後相談やフォローに至るケースはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の言葉を受け、出来る限り本人の意向に沿える様にケアプランに繋げているが、掴めない方に関しては、気分や行動の背景から困っている事や望む事を捉える様に支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービスの情報提供を把握すると同時に、生活状況や馴染みの暮らし方等を把握する事でその人らしい生活が継続出来る様、収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆と同じ様に生活する事で安心される方や、自分のペースや体調での暮らし方、仕事や役割りの欲しい方と夫々の暮らしの場面がある事を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設長、計画作成担当者、ケアスタッフにより、モニタリング、アセスメント、ケアプラン作成に向けて話し合い作成されている。家族様へ説明同意を得て、更に生活に対する意向の確認を行い実践に繋げるも、未だ、発想やアイデアは足りない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアや対応等個々の記録に記入し、情報の共有にも繋がる様に実践しているが、係わり方も十分見えないものが多く気づきや工夫の足りない状況から、活かされる記録内容に迄は至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季のはっきりした中で、冬の降雪など直接生活に影響を及ぼす事もあるが、外に出る機会を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から掛かっていた医療機関を基本としながら、家族の意向、専門医の受診が必要な際は、本人家族様と医療機関を決め、本人にとって適切な医療が受けられる事を第一と捉え、医療機関との関係性も大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院との医療連携をとっており、毎週看護師の訪問時には、体調面などの相談やアドバイス、受診への判断に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を細かに行い、利用者様の体調や日々の状態を適切に伝え、入院時の治療に更に配慮がなされる様に努めている。又、症状が安定した際には、入院期間を短くする事で、少しでも早く元の生活に戻れる様な支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の徴候が見えてきた時には、家族さんも一緒に受診に付き添いを求め、入院であるならば期間や予測される事、戻れるかも含め医師の判断を仰ぎ、家族様と検討して方向性を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受けているが、皆が実践力を身に付けるまでは至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防避難訓練を地域の方の協力を受けて実施しているが、咄嗟の時の対応など不安が多く、身に付くまでにはなっていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導などで、他の方に聞こえてしまう様な場面が見られる事や、「ちょっと待ってね」と言ってしまう等、人格の尊重に配慮が足りない時がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自から希望する時には、出来る事はその場で、内容によって本人に納得して頂き、時間を改めて支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ずしもスタッフ優先ではなく、少人数ではあるがその人その人に合わせたペースで生活出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを大事にしつつ、違和感のある時には、さり気なく着替えてもらう事や、その時々TPOに合わせた支援を行っている。整髪、整容等にも配慮を行っているが、不十分な時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望等を伺うが、嗜好が以前と変わっている傾向がある。又、一緒に準備に臨むというより、部分的な手伝いが多くなり、食事後も食器拭きやお膳拭き等が大半を占めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを意識している。食事量や水分栄養面で確保が難しくなっている状況があり、補食で小まめな摂取を意識し、受診時には栄養面を診てもらっている。他の利用者様は栄養水分共に確保されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本来毎回行う事が大切ではあるものの、実際には夕食後でのケアが殆どの状態。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が多い等から、排泄用品を使いつつも、出来る限り本人のパターンや、排泄間隔をみながらトイレでの排泄に繋がる様、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分、運動等も意識して工夫を行なっているが、好みや摂取が難しい利用者様へは、薬での調整が必要になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が早いと言う方へは後半にずらし、再度声を掛け促す事や入りたくないと言う方は翌日の予定へ変更する等を行い、入浴を好まない方へは、動作の途中から自然に促す等、その時々に合わせて柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や、睡眠は習慣に因る処も多く、夫々その方のペースと捉えている。しかし、体調が優れず休息が必要な状況でも休息をとれない方に関しては、居室での休養を誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的は理解しているが、副作用の理解に迄は至っておらず、症状に対して副作用なのか、別の疾患なのかは理解出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事では色々な内容を用意した中から選び楽しめる様係っているが、生活歴を活かした役割りとしては情報を収集して実践するところ迄至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日その日、その人の希望に気付いているか、その人の思いに添っているかと言うと希望の把握に迄は至っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	決まり事として日常的には持っていないが、要所所でお金を持ってもらい使える場面を作る事が大切だと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供さんからの手紙やハガキが定期的に届き楽しみにされている方や、姉妹から季節の果物などが送られて来た時には、お礼の電話を掛けて、近況などを伝える様支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、共用の居間には季節に合わせた装飾を行っている。又、居間には天窓がある事で明るさが多く、日中殆どの利用者さんが活動を行ったり、テレビを見る等して過ごされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが限られた中で、椅子の配置を替える等を行い工夫をしていて、自然と居場所が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、新しい物を買わず、馴染みのある物や使い慣れた物を用意していただく様にと働きかけ、安心や居心地良く暮らせる為の配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、身体機能の低下に対応出来る様に配慮されている。居室を迷う方へは、表札の他に居室の戸に名前を付ける等を行っている。		